

NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

定価:250円・年額:3,000円(送料込)
*会員は会費(支援金)を含む。



《写真説明》

2/22:教育大実習前半組
5日目、食育／「餅つき」
～「旧正月」をテーマに、
建物玄関前の道路で
全員が体験しました。

■■ INDEX ■■

- P1:巻頭言
- P2:ヒューマンラスト/
普及活動、会費納入他
- p3:「大久保尚孝さんを
悼む」告別文
- p4-5:釧路教育大授業
- p6-7:環境教育の実践
公的記事・集会レポート
- p8:時事、スケジュール他
- *「新年度会費お願い」

「教えから見た学ぶ力」

北海道教育大学／釧路校・教授 倉賀野 志郎

釧路では学力条例などが提出／決議され昨年末には成立しています。学力についての論争を再燃させるつもりはないのですが、点数で計られた「 \uparrow 」付きの「学力」だけではない多様な学力があることは当然のことでしょう。しかし、その「学力」に関しても、内容上の対峙が必要だと考えています。

算数／数学は計算手順として、理科／社会は暗記物としての学生の理解状況を見てみると、小／中／高校という履歴を経ての当然の帰結だとも思えます。そもそもの概念の意味を問う、その計算がより高次な中にどのような柱として成立していくのかなど深めて行く課題は多くあります。

少し前に「分数も出来ない大学生」というような事が話題になったことがありましたが、もし教えの視点からするならば、「意味も分からず計算が出来る事の方が最悪」として捉える必要があると思います。

点数で現れる学力に関しても、より豊かな学びが、結果として点数向上につながるような対峙が今、求められているのではないのでしょうか。

(注:筆者の研究室は『自由が丘』が夕張で開校以来、年4-5回の総合型実習を本スクールにて継続実施)